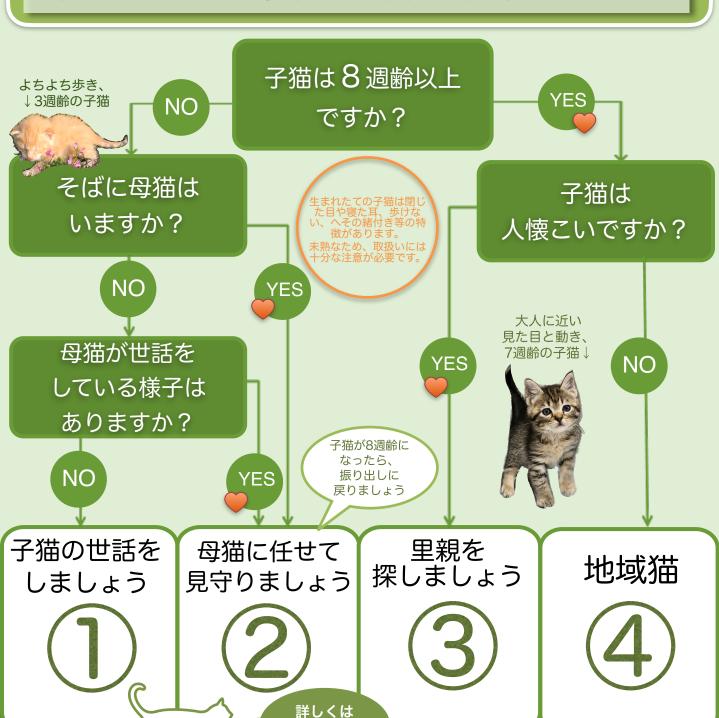
もしも子猫を見つけたら

小さな子猫を見つけたら、どうしたらいいのでしょう? 以下のフローチャートを参考に、一番良い方法を探してみましょう。



裏面へ!

子猫の世話をしましょう



母猫が事故で死んでしまったり、ストレスで育児放棄された乳飲み子猫は人間の手助けが必要です。母猫は食餌のため半日ほど留守にすることもあるので慎重に様子を見ましょう。母猫に不安を与えるので、むやみに子猫に触れたり、移動させてはいけません。

新生児のうちは数時間おきの授乳や排泄の介助、保温が必要です。もしお世話が難しい場合は保護する前に愛護センターにご相談ください。

母猫に任せて見守りましょう



子猫が8週齢未満で母猫が世話をしているようであれば、そっとしておきましょう。子猫が8週齢以上になったら、母猫を含めて里親を探すか、TNRするか決めましょう。

子猫だけ母親から引き離すことは全くおすすめできません。子猫の発育に影響が出るほか、母猫がすぐに次の子を妊娠・出産するため、反って状況は悪化します。

もちろん、 ご自宅で飼えるのなら最高! 不妊手術を忘れずに!

動物病院にチラシを貼らせてもらったり、新聞に広告を載せるのも効果があります。

里親を探しましょう



猫を家に入れる前に動物病院にかかりましょう。必要なケアは沢山ありますが、最低限ノミ・ダニ駆除は必要です。お知り合いで飼える方はいませんか?連絡をとってみましょう。

愛護センターで開催している譲渡会に参加したり、宮崎市のHP に写真を掲載して里親募集をすることもできます。詳細はお問合せください。

お金はかかりますが、動物 病院でも野良猫の不妊手術 をしてくれます。相談して みましょう。

地域猫 (TNR: Trap-Neuter-Return)



生後4ヶ月を過ぎると社会化が徐々に難しくなってきます。子猫が友好的でない場合は地域猫活動を検討しましょう。

捕獲(Trap)して、不妊手術(Neuter)を施し、元の場所(Return)で、一代限りの命を見守ります。手術やその後の管理をすることで、飼い主のいない猫の増加によるトラブルを防ぎます。センターでは自治会およびボランティア団体に対し地域猫活動支援を行っています。詳しくはお問合せください。